

サーチライト With Pastor Jon 黙示録 第2章 パート2

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」

ヘブル4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

使徒 20 章で、パウロはエルサレムに向かう時、このエペソの兄弟たちに二度と会うことはないとわかっていたので、彼らを集めて言いました。

「私が去った後、あなたがた自身の中から、貪欲な狼が出てくるでしょう。だから、どうか、この2年間、夜も昼も、私が涙と共に訓戒してきたことを思い出して下さい。

惑わす者たちが現れるから。」

確かにそれらは現れました。

では、何が起こったのか見ていきましょう。

『右手に七つの星を持つ方』(黙示録 2:1)

七つの星とは、御使いや教会のリーダーたちです。

『七つの金の燭台の間を歩く方が言われる。』(黙示録 2:1)

イエスは教会のただ中を歩いておられる。イエスは教会の中にいるのです。

「教会なんて必要ない。」と言っているクリスチャンたち、残念ながらイエスはそこにいるのです。「でも、この辺りの教会は、本当にとんでもないんだ。」この教会もそうですよ。それでもイエスは金の燭台の間において、この教会にこう言われます。

「わたしは、あなたの行ないを知っている」(黙示録 2:2)

「あなたはよく忍耐して、わたしの名のために耐え忍び、疲れたことがなかった。」
(黙示録 2:3)

ここで最初に、褒める言葉が語られました。

「あなたがたは、働きを止めることなく、懸命に働いて疲れなかった。」「あなたがたは使命を守り、真実を貫いて立ち上がった。」「そして、あなたがたは、使徒と称してリーダーになろうとした者たちを捕まえ、その偽指導者たちの嘘を暴いた。」

さて、多くのクリスチャン、特にリーダーたちがよく言うセリフは、

「兄弟、私を裁いてはいけません。裁くなって、イエスが言ったでしょう。」

「さばいてはいけません。さばかれなためです。」(マタイ 7:1)

しかし、同じ章の中でイエスはこう言っています。

「にせ預言者たちに気をつけなさい。彼らは羊のなりをしてやって来るが、うちは食欲な狼です。あなたがたは、“実によって” 彼らを見分けることができます。」(マタイ 7:15-16)

イエスが言っているのは、強い非難をもって裁かないように、個人的に攻撃して責め立てないように。しかし、人を見極め判断するべきだということです。

非難ではなく見極め。

「あなたがたは実を見る目を養い、その実をよく見極めなさい。」と。

なぜなら、親として、子供たちを御言葉で養い育てていたとしても、彼らの周りにいる人間の実を調べないでいるのは、狼を警戒していないのと同じで、ただ殺されるために太らせているようなものなのです。

これは、牧師やリーダーにも言えることで、もし御言葉を教えるだけで、偽物や嘘つき、惑わす者について教えないなら、殺されるために食事を摂らせているのと同じで愚かなことです。

親として、リーダーとして、また信者として大事な仕事、責任のひとつは、偽教師や偽神学に対して注意深くあることです。

そして、イエスはこれに関しても、「あなたがたは彼らの嘘を見破った。良くやった!」と言っているのです。「彼らは悪い実を实らせていた。そのような者に注意しなさい。」

この後「あなたがたは、信仰をもって労苦を惜しまなかった。それでも、」と、矯正に導く言葉が続きました。

「しかし、あなたには非難すべきことがある。あなたは初めの愛から離れてしまった。」
(黙示録 2:4)

あなたたちは、多くの働きをして、労苦を惜しまず疲れたことがない。神学を理解し、偽りを見抜いた。しかし、これらの働きにもかかわらず、あなたたちには感情がなかった。初めの愛から離れてしまった。

このエペソという町の名前の意味はダーリン。

パウロが、初めてこの町に来て信者に会った時に感じたのは、彼らは何かがおかしい、聖霊が欠けているということでした。彼らは、働き者で行動的な集団でした。

しかし、彼らにはイエスに対する情熱がなかったのです。

ここで気付いてほしいのは、言葉の違い。

よく引用される「初めの愛を失った」ではなく、「彼らが離れた」と言っています。

「失くした」のではなく「離れた」

誰も初めの愛を失わない。人々が愛から離れるのです。

イエスがエペソの教会に、そして今も皆さんや私に、初めの愛を失ったのではなく離れた者たちに言われたことは、

「それで、あなたは、どこから落ちたかを思い出し、」(黙示録 2:5)

初めはどうだったかを、燃えていた頃、情熱的だった頃、リアルな世界をイキイキと歩んでいた頃を思い出せ！

「どこから落ちたかを思い出し、悔い改めて、初めの行ないをきなさい。」(黙示録 2:5)

「悔い改める」とは簡単に言うと方向を変えること。

「初めの行ないをきなさい。」これは私へのアドバイスであり、皆さんへのものでもありません。あなたが燃えていた頃、何をしていましたか。

「教会へ行っていました。」また行きなさい！

「早起きしてディボーションをしていました。」もう一度やりなさい！

「高速道路を運転しながら賛美するのが好きでした。」素晴らしい！またやりなさい。あなたが燃えていた頃、何をしていたかを思い出し、それをもう一度始めるのです。

「思い出し、悔い改めて、繰り返せ。」とイエスは言われます。

「初めの行ないをきなさい。もしそうでなく、悔い改めることをしないならば、わたしは、あなたのところに行って、あなたの燭台をその置かれた所から取りはずしてしまおう。」

(黙示録 2:5)

これは重大です。

イエスはこう言っているのです。「わたしは、愛のない教会には留まらない。」

盛り沢山のプログラムで、イベントも盛んかもしれない。神学にも忠実かもしれない。

しかし、

「わたしは、本当の愛のない所には留まっていない。愛のない所に、わたしはいない。」

たとい、私が人の異言や、御使いの異言で話しても、またあらゆる奥義とあらゆる知識とに通じ、私のからだを焼かれるために渡しても、愛がなければ何の値うちもない。

(第1コリント 13:1-3)

愛がなければ何の意味もない。厳しい言葉ですね。

そして続きます。

「しかし、あなたにはこのことがある。あなたはニコライ派の人々の行ないを憎んでいる。わたしもそれを憎んでいる。」**(黙示録 2:6)**

「ニコライ派の行いを忌み嫌いなさい。」これが命令です。

ニコライ派とは何か。

ニコスやナイキは、征服とか勝利の意味です。

だから、あなたがナイキのエアージョーダンの靴に 150 ドル払ったとしたら、コートに入る度に見事なプレイでシュートを決める。ナイキの靴に 150 ドルも払ったのだから。

征服した！勝利だ！

これがナイキやニコス、ニコレアティなどの言葉の意味です。

ナイキ、ニコス、レアティ…何か気付きませんか。それは、人々、一般信者ということ。

レアティの教会と言えば、一般信者の教会。

だから、ニコレアティ（ニコライ派）というのは、人々を、一般信者を征服または支配した教会。

それでイエスは、「あなたがたは彼らを憎んでおり、わたしもそれを憎んでいる。」と言いました。

どんな状況かと言うと、人々が来て、「私が霊的指導者だ。私に従え。あなたが誰と付き合い、どこに住み、何をするかを私が決める。なぜなら、私が最も聖なる者だから。」「私は使徒だ。」「私は預言者だ。」

その他何であれ、第2コリント1章でパウロは何と言っていますか。

私たちは、あなたがたの信仰を支配しようとする者ではなく、あなたがたの喜びのために働く協力者です。(IIコリント 1:24)

これが、私たちの働きのすべてです。

「私はあなたの助言者だ。」「私があなたのリーダーだ。言う通りにしなさい。」と言うよう

な人は、誰であっても警戒しなさい。気をつけて！

皆さんが繋がるべき人は、「私はあなたの喜びのために働きたい。」「あなたに仕え、あなたのために祈り、あなたと御言葉を分かち合いたい。」「だけど、支配しようなんて思わない。」あなたがたを支配しようとする人に注意しなさい。肩書きや名前にこだわる人を警戒しなさい。それは、ニコライ派の思考です。

イエスは 6 節で、エペソ教会の人々が、自分たちを支配しようとしたニコライ派に騙されなかったことを喜び、「わたしもそれを憎んでいる。」と言われました。

そして、

「耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。勝利を得る者に、わたしは神のパラダイスにあるいのちの木の実を食べさせよう。」(黙示録 2:7)

彼らに欠けていたのは聖霊の実。つまり愛。

もし彼らが勝利し、悔い改めるなら、方向を変えるなら、彼らはいのちの木の実を永遠に食べるができるのです。

ところで、この“いのちの木”というのは創世記に出てきます。

禁断の、善悪の知識の木の実を食べてしまったアダムとエバは、いのちの木の実をも食べて永遠に生きることがないように、エデンの園から追放されました。

こうして、神は人を追放して、いのちの木への道を守るために、エデンの園の東に、ケルビムと輪を描いて回る炎の剣を置かれた。(創世記 3:24)

なぜなら、これは神の憐れみ、愛なのです。

もし、彼らがいのちの木の実を食べたなら、二人は墮落した状態で、永遠に生きることになります。つまり、体は朽ちていくのに永遠に死ねない。どんどん年を取り 150 歳、230 歳、880 歳…。体は衰え地に横たわっているのに、永遠に死ねない。想像できますか。

そこで神は「そんなことはさせない。」と、ケルビムと炎の剣を置いて、人がいのちの木に近付かないようにしました。これは、神の憐みです。

その“いのちの木”が、ここで再び登場します。それは、天国にあります。

「勝利を得る者に、いのちの木の実を食べさせよう。」と主イエスは言われました。

私たちも、その栄養たっぷりの実を食べるようになります。

さて、次の教会に行く前に、もう一つ伝えておくことがあります。

このエペソの教会は、教会史では AD33 年から AD100 年まで。

よく聞いて下さい。

ヨハネにメッセージが与えられ、この書を書いたのが AD97 年頃。

その時代、何が起こっていたのか。

当時、AD100 年になる前に、既に教会は大混乱の中にあったのです。

彼らは活発でした。しかし、情熱はなかった。

「あなたがたが悔い改めなければ、わたしはそこにはいない。」と主が言ったにもかかわらず、彼らは既に危険な状態だったのです。

聖書を学ぶ人たち、長老、指導者たち、そして皆さん、注意してしっかり聞いて下さい。人々が来てこう言うでしょう。「私たちの教会で何が起きているか、聖書では説明できないよ。」

「御言葉にはないけれど、教会史の中にはある。」彼らは、自分たちはこのリバイバル、あの時代、この部分、そのグループ等々を知っていると喚き揺らぎますが、そのような事は今までもいつも起こりました。

彼らは御言葉ではなく、教会史をアピールするのです。

はっきり書き留めて下さい。

この先もそうですが、教会はどこも問題だらけ、めちゃくちゃです。

AD100 年の時点で、早くも教会はめちゃくちゃの状態に陥っていました。

既に、イエスによって取り除かれる危機にあったのです。

だから、教会史を実践、また神学として用いないように。

教会史からは実践の信仰は学べない。それは、御言葉から学ぶのです。

それには使徒の働きの書が手本となるでしょう。

これはわずか 30 年の間の記事ですが、教会は既に清さを失い墮落し始めており、それ故に、教会はどうあるべきかが書かれているからです。

でも、私がいいなと思うのは、イエスと教会とのあるべき姿が、この書の中で語られている事です。

教会史の早い時期から、教会は問題だらけでした。

だから、「あの時代にはリバイバルや新生が起こった」というような理由付けで、歴代の教会を真似て、あれをしよう、これをしようという者とは、一切関わってはいけません。

なぜかと言うと、答えは聖書の中だけに見出せるからです。

聖書の中にのみ、安全かつ清さがあるのです。

御言葉にしっかり繋がっている時のみ、固い基盤の上に立つことができるのです。

また、スミルナにある教会の御使いに書き送れ。(黙示録 2:8)

つづく

私は、今していることを今後も、し続けるつもりです。それは、私たちと同じように誇るところがあるとみなされる機会をねらっている者たちから、その機会を断ち切ってしまうためです。

こういう者たちは、にせ使徒であり、人を欺く働き人であって、キリストの使徒に変装しているのです。

しかし、驚くには及びません。サタンさえ光の御使いに変装するのです。

ですから、サタンの手下どもが義のしもべに変装したとしても、特別なことはありません。

彼らの最後はそのしわざにふさわしいものとなります。(Ⅱコリント 11:12 - 15)